



約100人が参加したセミナー

# 維持管理のあり方学ぶ

## コンクリート診断技術セミナー

県診断士会

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は25日、福井市松本3丁目の県職員会館で「コンクリート診断技術セミナー」を開き、参加者約100人がコンクリート構造物の維持管理のあり方を学んだ。

コンクリート構造物の維持管理の重要性の高まりとともに、長寿命化への対応が大きなテーマとなっている。そのためには劣化の現状と対策を正しく理解し、維持管理のあり方について見識を深めることが不可欠。そこ

でセミナーでは、維持管理を中心に問題点を探った。冒頭、石川会長が「会員以外の方の参加もいただき、コンクリート構造物の維持管理に理解を深めることが今回のテーマである。維持管理につい

ては社会ニーズの関心の高まりを感じる。今回のセミナーが有意義のものになることを願う」などとあいさつ。続いて講義に入った。

講師は電気化学工業セメント・特混事業部の安藤哲也技監と福井大学工学研究科建築建設工学専攻の磯雅人氏。それぞれ「コンクリート劣化のメカニズム、補修、補強工法と材料の選定」、「コンクリート構造物の長寿命化に向けて」をテーマに解説した。

安藤氏は、引張り強度によるひび割れの原因や劣化対策のほか、最近の補修モルタル技術などを紹介。磯氏は耐震補強に短繊維や連続繊維シートなど繊維補強材の適用事例を挙げ、損傷原因を適切に判断でき、補修を選択できる能力が特に求められているなどと課題を指摘した。